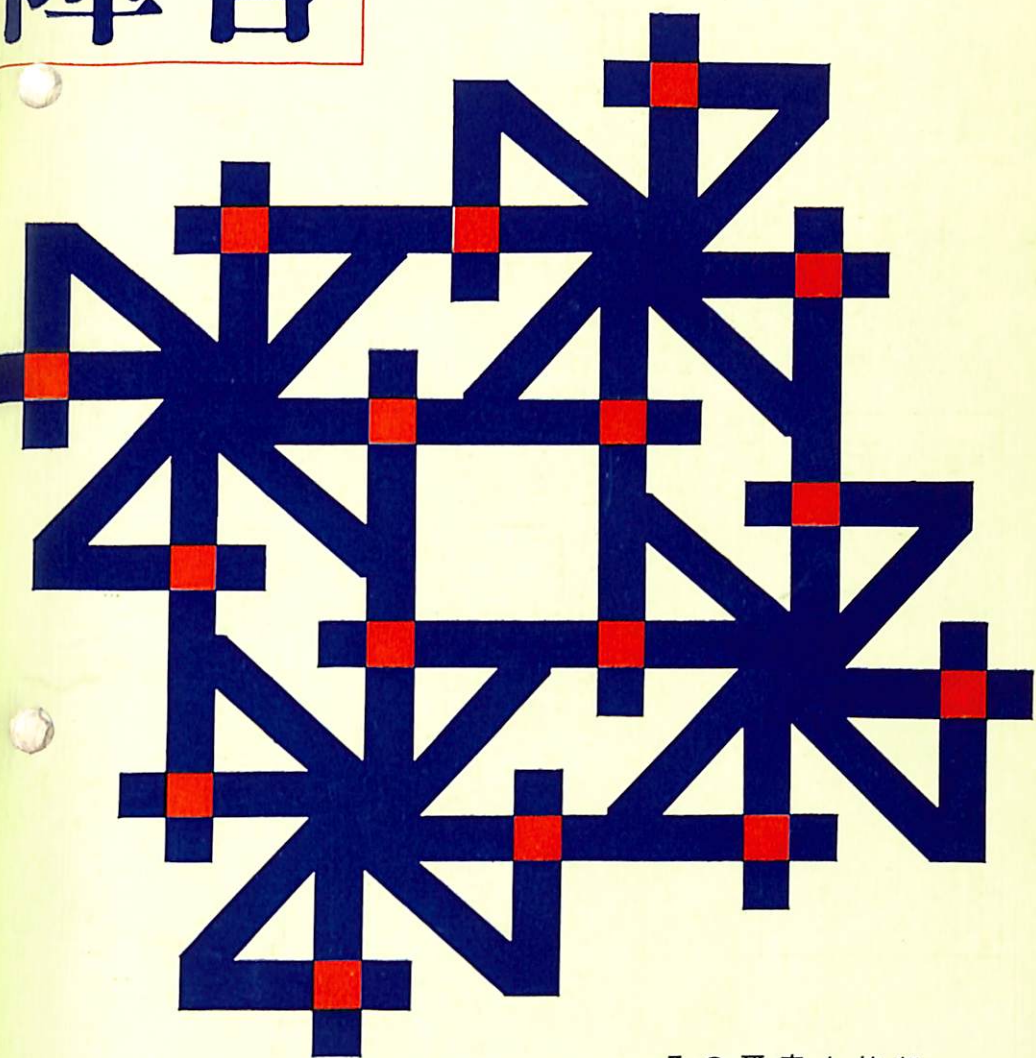


視覚 障害



その研究と情報

1977年 冬 No. 32

現代人の伴侶

〈項目総数二〇万〉

広辞苑

第二版
補訂版

新村 出版

A5判クロス装丁製本入・二四六六頁 四六〇〇円

最新の資料にもとづいた補訂版

古語・現代語を網羅し、百科項目をも広く採録した「広辞苑」は、単に国語辞典としてだけでなく、専門辞典・百科事典として、幅広い読者に愛用されてきた。その信頼と期待にこたえ、第二版刊行以降の国際・国内社会の変動、諸科学の進展、それらに伴う言語生活の変化に対応し、また、最新の資料にもとづいたデータ更新などの増補修訂を加え、ここに補訂版とした。

〔補訂の主な内容〕▼国・都市の面積・人口、山や川の高さ・長さ、原子量などの最新データによる更新▼政体・条約・法令など国際・国内の機構や制度の改変に伴う修正▼諸学の最新の成果を摂取し、地球科学・天文学・生態学・行動生物学など新しい学問の成果も反映した補筆▼「オキシゲン」「オリエンテーリング」「親方日の丸」「学際」「雇用保険」「忠實直哉」「手話」「シンパズエ」「生物濃縮」「多国語企業」「白ろう病」「花明り」「バプア」「ニューギニア」「プレートテクトニクス」など数百に及ぶ新項目の採録など。

机上版 同時発売!

「文字の大きい広辞苑」という多くの要望は、愛用者の年代が広がるなかで長年にわたり寄せられてきた。今回これにこたえて、補訂版刊行を機に、大きくて一層読みやすい机上版(大判本)を同時に発行する。

B5判クロス装丁製本入・二四六六頁 机上版定価九〇〇〇円

岩波古語辞典

大野 晋・佐竹昭広・前田金五郎編

B6判上製本入・一五二六頁 三三〇〇円

高校生時代から本格的読書を!

日本の古典を読む上に必要な語彙四万三千を収録。豊富な用例に基づいて的確な語釈を定め、語源に遡って語義の生成と歴史的な推移を踏づけた。斯界注目の斬新な辞典。

岩波国語辞典 第二版

西尾 実・岩淵悦太郎・水谷静夫編

小B6判上製本入・一七頁 一三〇〇円

新音訓・送り仮名による改訂版
話し、聞き、読み、書くという日常生活の中で必要なことばについて、その意味を的確にとらえて、正しい使い方を確かめるために欠かせぬ、生きたことばの辞典。

百人一首一々話 全冊

尾崎雅嘉 古川 久校訂

正月のたびに家庭の遊戯としてよみがえる百人一首はどわれわれに身近な古典はあるまい。江戸時代後期の学者尾崎雅嘉によって書かれた本書は、百人一首の解釈の他に作者の略伝などの逸話を豊富にとり入れて描いた興味深い読物。
〈岩波文庫〉上下各四〇〇円

岩波書店



東京千代田一ツ橋〒101
振替番号<東京>6-26240

お 知 ら せ

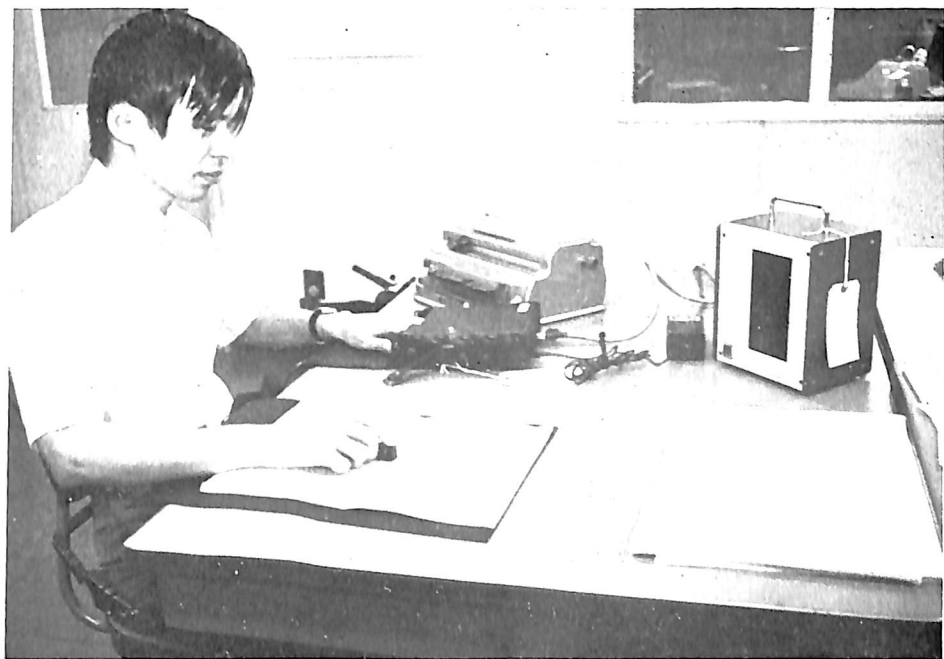
・本誌が「視覚障害」と改名したのを機に、新しい編集長をむかえることになりました。松井新二郎先生は、すでにご存知の方も多いと思いますが、東北大学視覚欠陥学講師として学問の分野でも実績がある一方、日本盲人カナタイプ協会常務理事、日本盲人社会福祉施設協議会副会長など、幅広い活動をされている方です。また、本誌の発行元である日本盲人福祉研究会の副会長でもあり、国立東京視力障害センターにおられたことから、視覚障害者のリハビリテーションにも詳しい方です。視覚障害のあらゆる分野に精通しておられる先生ですので、本誌が新規一転、再出発するにはうってつけの編集長といえましょう。新編集長のもと、本誌がさらに充実し、発展することを、読者のみなさまとともに期待したいものです。

・前号(「新時代」1976年第3号№30)で、この号から誌名を「視覚障害」にかえるとともに、B5判、主な使用活字9ポイントにすることをお知らせいたしましたが、本号の編集作業に入ってから、B5判で同じ程度の内容を保つには、1冊の重さが100gを越えることがわかりました。100gを越えますと、郵送料が140円から一気に200円となり、現在の購読料ではその値上り分をとうていカバーできないこともわかりました。あちらこちら折衝しましたが、それだけの財政負担をしてくれるところもなく、やむなく元どおりのA5判にすることになりました。少しでも見栄えがよく、読みやすいことを心掛けたのですが、このような理由から実現できませんでした。あしからずご了承ください。

・昭和48年10月、「新時代」が一般向け雑誌になり、みなさまにご愛読いただいて3年になります。私事になりますが、これを機に編集の任を解かせていただくことになりました。この3年間、読者のみなさまは言うに及ばず、快く執筆を引き受けてくださった諸先生方のご協力があったからこそ、私のような者でもなんとか無事に発行を続けてくることができたものと心から感謝しております。今後も編集委員の一人として残りますし、事情の許す限りお手伝いもしたいと考えておりますので、前にもましてご鞭撻いただきますようお願い申し上げます。

(田中 徹二)

仕事あれこれ



はばたく全盲プログラマー

オフタコンを利用し、プログラミングに励む青年

(大関酒造にて)



職場進出に胸ふくらませながら電話交換の訓練に励む全盲の女性

(日本ライトハウス職業生活訓練センターで)



久里浜の国立特殊教育研究所にて電話交換手として活躍する全盲の女性



東京地方裁判所の法廷審議の録音テープをききながらタイフ速記に従事する録音タイヒスト

(東京録音タイフ社で)



テレフォンセールビジネス
 兼ひにセクレタリーとして
 活躍する盲青年

I.I.C

(株式会社アイデア、あいてあーI、I、Cーで)



(東京都立障害者福祉会館で)

公務員として障害者の相
 談指導に励む全盲青年



目 次

1977年 冬 No. 32

2 ページ評論	岩 橋 英 行	2
視覚障害者の働く権利の保障をめざして	永 井 昌 彦	4
身体障害者雇用促進法の改正	牧 田 克 輔	13
点字カセットシステムおよび		
自動点字読み取り装置の研究	長谷川 健 介 入 江 正 俊	26
あの人この人 点字毎日文化賞に輝く加瀬三郎さん		36
自立のために (2)	アン・イードン	39
インフォメーション・コーナー		47
施設をたずねて 盲人、障害者のモデル工場をめざして		51
内外文献		55
編集後記		58

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

編 集 後 記

リハビリテーションの最終ゴールは職業の自立にあるといわれております。また、視覚障害者に対する社会の偏見をとりのぞき、健常者との平等感を実証するのは、視覚障害者の職業能力にあるともいわれております。したがって、視覚障害者はその残存する能力を開発し、適性に基づく職業を選択し、社会の経済活動に参加することが重要なことはいうまでもありません。この意味において、前号では古来よりの伝統ある視覚障害者の職業としての、三療業について特集をいたしました。本号においては、引きつづき視覚障害者の労働問題に主体をおいて編集いたしました。読者のみな様のご意見をお寄せいただければ幸いです。

なお、連載しておりました香川すみ子先生の“普通幼稚園に就園する盲幼児の指導”ならびに藤井聡尚先生の国内文献の紹介は、両先生のやむを得ない御都合により、本号においては休載させていただきました。次号においては従前通り掲載を予定しております。

(松井新二郎)

視 覚 障 害 1977年 冬 №32

年間購読料 1,500円 (送料とも)

発行日 1977年 1月 1日

発行者 本 間 一 夫

編集者 松井 新二郎

発行所 日本盲人福祉研究会

〒532 大阪市淀川区塚本 3 丁目 12 番
6—301

電話 (06) 309—2100

振替口座 大 阪 4 0 2 7 0

印刷所 合同印刷株式会社

〒130 東京都墨田区業平 2-9-13
電話 (622) 1925 番 (代表)

協賛団体 日本点字図書館